令和６年度　宮古地域振興センター業務方針

別添２

令和６年４月25日　作成

**Ⅰ　組織プロフィール**

　１　組織の目的・役割

|  |
| --- |
| **○　組織スローガン**震災の風化を防ぎ　整備された社会基盤を十分に生かし　国内外に開かれた　より良い復興の推進と持続可能な新しい三陸の創造**○　基本方針**１　「地域振興プラン」（Ⅰ安全、Ⅱ暮らし、Ⅲ産業の３つの振興施策の基本方向と15の重点施策項目）を着実に推進します。２　東日本大震災津波の教訓の伝承・発信と東日本大震災津波や多発した洪水・土砂災害からの復旧・復興に取り組み、被災者一人ひとりに寄り添った支援を継続して実施していきます。３　沿岸圏域の３つの重要課題である「人口減少対策の推進」、「主要産業の振興（主要魚種の不漁対策、水産加工業の振興）」、「安全・安心な地域づくり」に重点的に対応していきます。４　喫緊かつ最重要課題である人口減少対策については、市町村と連携・協働し、小規模町村には伴走型支援を行うなど、地域の特性を踏まえて対応していきます。５　県の重点事項であるＧＸ・ＤＸの推進も含め、地域の状況・ニーズを十分に踏まえ、市町村、関係団体等と協力・連携し、広域振興事業や地域経営推進費を効果的に活用して、地域の課題解決・地域振興を推進します。　　６　「三陸防災復興ゾーンプロジェクト」の推進により、豊富な地域資源と整備された新たな交通ネットワークや様々なつながりを生かし、地域産業の振興と国内外との交流人口の拡大を推進します。 |

２　組織の主要な価値提供先（顧客）やビジネスパートナー

|  |
| --- |
| **【価値提供先（顧客）】**地域住民、生産者・事業者、企業、観光客、市町村、関係団体　ほか**【ビジネスパートナー】**国の関係機関、市町村、企業、関係団体、大学等学術研究機関、NPO法人　ほか（※ 関係団体：商工会議所、商工会、観光協会、特定地域づくり事業協同組合、農業協同組合、森林組合、漁業協同組合、社会福祉協議会　等） |

３　主要な価値提供先（顧客）ごとの提供すべき価値

|  |
| --- |
| **〇　地域住民** ＝ 災害に強く安全で安心な暮らしを支えるまちづくり、地域行事・イベントへの積極的な参加　など**〇　生産者・事業者、企業** ＝ 主要産業である水産業振興のため、大学と連携した効率的な養殖技術の開発などによるサーモン養殖事業の確立・販路拡大、水産加工業者等への経営支援の強化　など**〇　観光客** ＝ 復興道路等の整備された交通ネットワークによる交通利便性向上の周知、隣県・北海道・首都圏への情報発信、三陸鉄道、三陸ジオパーク、みちのく潮風トレイルなどの地域資源を活用した三陸沿岸への誘客促進　など**〇　市町村** ＝ 市町村との連携による人口減少などの地域課題の解決　など**〇　関係団体等** ＝ 各業界団体と連携した担い手確保対策の推進、災害公営住宅などの地域コミュニティの形成や活性化に向けた支援　など |

　４　組織や業務を取り巻く環境とその変化

|  |
| --- |
| (1)　東日本大震災津波からの復興については、まちづくりの面整備や災害公営住宅の整備などが完成し、台風災害からの復興についても着実に進展していますが、心のケアやコミュニティ形成・活性化など被災者一人ひとりに寄り添った支援や地域資源を活用した販路多角化などによる産業振興に引き続き取り組んでいく必要があります。 (2)　急速に進行する人口減少に最優先に取り組むため、第２期政策推進プランに掲げる４つの重点事項である「自然減・社会減対策」、「ＧＸの推進」、「ＤＸの推進」、「安全・安心な地域づくり」について、沿岸圏域の地域特性を踏まえた取組を推進する必要があります。(3)　本県最大クラスの地震・津波浸水想定等を踏まえ、市町村との連携体制の強化などによる防災・減災対策を推進する必要があります。(4)　豊富な地域資源や復興道路、三陸鉄道リアス線、釜石港外貿ダイレクト航路など整備された交通ネットワークを生かし、地域経済をけん引する産業が持続的に成長する地域づくりを推進する必要があります。(5) 　「三陸防災復興プロジェクト2019」、「ラグビーワールドカップ2019TM岩手・釜石開催」、「防災推進国民大会2021」、「第73回全国植樹祭いわて2023」の成果を継承するとともに、三陸ジオパーク、みちのく潮風トレイルなどの地域資源を活用しながら、コロナ禍で減少した交流を着実に回復させ、国内外に開かれた交流拠点として、地域の魅力を発信し、交流人口の拡大につなげていく必要があります。(6)　主要産業である水産業については、主要魚種の不漁、エネルギー価格・物価高騰、ＡＬＰＳ処理水の海洋放出の影響などにより厳しい状況にあることから、「主要魚種の資源回復」、「増加している資源の有効利用」、「新たな漁業・養殖業の導入」に取り組んでいく必要があります。また、水産加工業者の経営力強化の推進とその取引先である国内外の事業者との取引の維持・拡大を図る必要があります。 |

**Ⅱ　本年度の業務運営方針**

　１　業務における主要課題

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目（何を） | 達成レベル・目標（いつまでに、どういう状態にするか） | 達成手段・方法（重要なプロセス・チェックの方法など） | 担当等 |
| １　地域振興プラン(1)東日本大震災津波の教訓の伝承と情報発信 | ・SNSを活用した復興の姿の情報発信回数（回）（沿岸全体）累計

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| - | 120 | - |

 | ・フェイスブック「三陸復興」等での情報発信・復興パネル展の開催 | 地域振興課復興推進課 |
| (2) 三陸地域の産業を担う人材の育成 | ・若手経営者勉強会・交流会等参加者数（人）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 74 | 100 | - |

 | ・【地】宮古・下閉伊モノづくりネットワークにおける経営者勉強会の開催（11月、1月） | 地域振興課 |
| ・ものづくり人材育成講座等修了者数（人）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 22 | 220 | - |

 | ・【地】宮古下閉伊モノづくりネットワークにおけるものづくりの出来る人づくり寺子屋の開催（６～７月） | 同上 |
| (3) 企業間のつながりや新たな交通ネットワークを生かした販路拡大と事業展開の促進 | ・商談会有望取引件数（件）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 19 | 100 | - |

・商談会新規出店者数（者）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 8 | 20 | - |

 | ・【地】宮古地域食産業振興事業による低コスト物流構築の実証実験（伊丹空港）、商品開発及び販路拡大の支援等 | 地域振興課 |
| 項目（何を） | 達成レベル・目標（いつまでに、どういう状態にするか） | 達成手段・方法（重要なプロセス・チェックの方法など） | 担当等 |
| (4) キャリア教育による若者の定着や、Ｕ・Ｉターン、起業支援などによる移住・定住の促進 | ・小中高生等キャリア教育支援者数（企業見学会・出前授業・職場体験参加者数）（人）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 1,134 | 2,500 | - |

 | ・【地】企業ガイドブック（中高校生向け）やお仕事探求ブック（児童向け）等による管内企業の情報発信・【地】教員向け企業見学会の開催による管内企業の理解促進 | 同上 |
| (5) 地域資源と新たな交通ネットワークを生かした観光地域づくりの推進 | ・三陸地域の観光消費額（億円）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R２ | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 275.6 | 375.2 | - |

 | ・【地】宮古港を起点としたクルーズ船乗客の広域周遊の促進・【地】外国人観光客の三陸地域への周遊を促進するため「みちのく潮風トレイル」を主軸としたプロモーションを展開 | 同上 |
| (6)内陸地域や東北・北海道と連携した観光プロモーションの展開 | ・県・三陸DMOセンターが提案した旅行商品の催行数（件）（沿岸全体）（累計）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R６ | 実績値R6 |
| 37 | 46 | - |

・教育旅行受入校数（校）（沿岸全体）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値 R3 | 目標値 R6 | 実績値R6 |
| 588 | 628 | - |

 | ・三陸ＤＭＯセンターと連携した観光地域づくりの推進・北海道と連携した広域観光プロモーションの展開・首都圏、仙台圏からの誘客促進・さんりく旅しるべ等による情報発信・【地】インフラツーリズムに係るデジタルコンテンツの作成支援・【地】宮古港を起点としたクルーズ船乗客の広域周遊の促進（再掲） | 広域（土木センター）地域振興課 |
| 項目（何を） | 達成レベル・目標（いつまでに、どういう状態にするか） | 達成手段・方法（重要なプロセス・チェックの方法など） | 担当等 |
| ２　地域振興プラン以外(1)災害対応・危機管理業務の円滑な実施 | ・研修会、訓練の実施（防災・危機管理）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| 5 | ６ | - |

・研修会、訓練の実施（鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| 2 | 2 | - |

・地震・火災訓練の回数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| ２ | 2 | - |

 | ・災害警戒当番説明会（４月）【１回】・緊急初動動員に対する説明会（４月）【１回】・リエゾン研修会（４月）【１回】・非常連絡訓練の実施（４月・９月）【２回】・管内市町村防災担当者会議の開催（９月）【１回】・鳥インフルエンザ机上訓練（９月）、実働訓練の実施（11月）【２回】・地震・火災訓練の実施（6月・10月）【２回】・日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策計画の策定（3月） | 総務課 |
| (2)働きやすい職場環境の整備促進 | ・総務担当課長会議開催頻度

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| 1 | 1 | - |

 | ・毎週月曜日に宮古地区センター長会議の開催・総務担当課長会議の開催（3月） | 同上 |
| ・職員衛生管理委員会開催回数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| ３ | 3 | - |

 | ・職員衛生セミナーの開催（宮古・岩泉各１回）・職員衛生委員会の開催（6月・12月・2月）・職員衛生管理に関する各種事業の実施・職場点検（8月・12月） | 同上 |
| 項目（何を） | 達成レベル・目標（いつまでに、どういう状態にするか） | 達成手段・方法（重要なプロセス・チェックの方法など） | 担当等 |
| (3)職場研修 | ・研修会開催回数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| ２ | 2 | - |

 | ・交通安全研修の実施（7月・11月） | 総務課 |
| (4)内部統制 | ・情報提供回数

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 現状値R3 | 目標値R６ | 実績値R６ |
| １ | 1 | - |

 | ・会計事務自己点検における各センター独自点検項目の共有・会計事務自己点検の各センターの点検結果の共有 | 同上 |
| ３　重点テーマ(1)人口減少（指標なし） | 人口減少対策（移住定住等）を関係団体と協議し、R6事業に反映 | ・管内市町村関係課やふるさといわて定住財団等と情報共有・意見交換の場を設け事業を具体化 | 地域振興課 |
| (2)DX推進（指標なし） | 生産、物流、消費においてデジタル化を進め、生産性や利便性を向上 | デジタルトランスフォーメーション理解増進に向けた普及啓発活動の展開（本庁事業等） | 同上 |
| (3)グリーン社会の実現（指標なし） | 　地域の企業における再生可能エネルギー由来の電力の利活用によるカーボンニュートラルへの貢献 | 　太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入拡大に向けた普及啓もう活動の展開（本庁事業等） | 同上 |

２　組織運営課題

（１）職員憲章の実現

|  |  |
| --- | --- |
| 職員憲章 | 取組内容・ねらい |
| 県民本位 | 振興局及び各所属の業務方針を県民本位を旨として定めて職員間で共有し、その実現に取り組みます。また、「現場主義」で地域の現状やニーズを把握し、地域課題の解決に取り組みます。 |
| 能力向上 | 地域のキーパーソンの招請など職員研修を充実させ、職員の能力向上を図るとともに、「いいね！アワード」や政策提案コンテスト「POLICON－i（ポリコン-あい）」への積極的な参加に組織的に取り組み、日々の業務の改善や政策形成能力の向上に取り組みます。 |
| 明朗快活 | 来庁者や職員への「あいさつ」の励行によるコミュニケーションの活性化などにより、明るくいきいきとした職場作りに取り組みます。 |
| 法令順守 | 「コンプライアンス確立の日」の取組を確実に実施し、職員の法令の遵守に努めます。 |
| 地域意識 | 地域で開催されるお祭りやイベントへの参加、地域プロスポーツ等の応援などに積極的に参加します。 |

（２）働き方改革の実現

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 実施内容等 | 業務見直し、業務効率化に係る指標及び目標値 |
| 業務効率化 | ○　カイゼンによる業務の効率化と生産性の向上、業務の見える化と計画的な業務管理・　統一的な様式による定期的な達成状況の把握と成果の確認 | ・事業の進め方に関する視点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 指標名 | 基準値（基準年度） | Ｒ６目標値 |
| **複写用紙の購入枚数（基準年度：Ｒ２）　※必須** | 10,008,500枚（R２） | 6,505,525（R2から35％減） |

　・県民サービス向上に関する視点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 指標名 | 基準値（基準年度） | Ｒ６目標値 |
| **「いいね！アワード」応募件数** | 17件（R４） | 27件（各公所１件以上×27公所） |
| **政策提案コンテスト「POLICON－i（ポリコン-あい）」応募件数** | ２件（R４） | ３件（各地域１件以上×３地域） |

　・働き方改革の推進に関する視点

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 指標名 | 基準値（基準年度） | Ｒ６目標値 |
| **１人当たり超過勤務時間数　　　　　　※必須** | 11.5時間（R５） | （集計中）時間（R５から５％減） |

 |
| ワーク・ライフ・バランス | ○　休暇が取得しやすい環境の整備　・　「金曜の午後は早めにカエルの日」の設定　・　休暇の計画的な取得の促進　・　知事、局長イクボス宣言の徹底 |

（３）内部統制

|  |
| --- |
| 内部統制の目的を達成するための年間取組目標 |
| 年間取組目標 | 目標を達成するための具体的方策 |
| 会計事務のリスク対策を事前に検討すること及び会計事務監査による指摘事項を繰り返さない。 | 各所属において、不適当な事務処理の発生リスクがある会計事務について、事前にリスク対応策を検討し、部内会議等で共有します。　また、これまでの監査で指摘を受けた事項については、所属長のリーダーシップのもと、組織全体で再発防止に努め、指摘事務のリスク対応策を実施するとともに、半年ごとの会計事務自己点検において改善状況を確認します。 |

（４）その他業務推進に当たっての組織運営上の基本姿勢・行動指針等

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **項目** | **課題** | **課題解決に向けた取組の方向** | **達成手段・方法** |
| **Ⅰ　組織運営** |  |  |  |
|  | １　局内の連携強化 | ○本局と地域センターのより一体的な組織運営 | ○定期的な運営会議等の開催による情報共有や施策調整○業務方針に基づいたより一体的な局の運営 | ○年間計画に基づく運営会議の開催○定期的な局長の行政センター訪問（センター所長会議への出席等）○より一体的な局運営をめざした業務方針の作成 |
| ２　広域的な施策の推進 | ○沿岸市町村協働での課題解決への取組支援○三陸全体の広域的な施策の推進 | ○広域的な情報の収集と共有○岩手三陸連携会議の取組支援○県北局との連携を強化 | ○定期的な局長の市町村長訪問○岩手三陸連携会議及びワーキングへの対応（随時）○事業連携の促進（人口減少対策に重点的に取り組むための連携強化等） |
| **Ⅱ　協働の促進** |  |  |  |
|  | １　市町村との協働 | ○市町村との連携を強化○市町村ニーズの的確な把握と状況変化の理解 | ○会議等を通じた情報の提供と共有○訪問、ヒアリング等による情報収集 | ○市町村からの要望への対応○市町村担当課長会議等の開催○市町村への訪問（随時） |
| ２　地域で活動する団体、企業等との協働 | ○地域で活動する団体、企業など、多様な主体の状況把握と課題の共有 | ○取組、課題、行政へのニーズ等の聞き取りを踏まえた連携と施策の検討、実施 | ○訪問、聞取り、対話（随時）○連携した施策、支援策の検討、実施○地域行事・イベントへの積極的な参加 |